

国際ソーシャルワークセミナーⅡ 出張報告

日時:2007年10月21日(日)9:30~16:30

場所:東京都千代田区霞ヶ関3-3-2 新霞ヶ関ビル 灘尾ホール

テーマ:「ソーシャルワーク教育における国際的動向とわが国の課題

(Global Trends and Japan's Current Issues on Social Work Education)」

主催:(財)社会福祉研究所

共催:社団法人日本社会福祉士会、社団法人日本社会福祉教育学校連盟、社団法人日本社会福祉士養成校協会、日本精神保健福祉士養成校協会、日本社会福祉学会、その他、計9団体

出張(記録)者:大塩まゆみ(看護福祉学部社会福祉学科、看護福祉学研究科社会福祉学専攻教授)

報告:

今回の国際ソーシャルワークセミナーⅡは、前日のⅠと二日間開催されたが、出張者は、前日は他の業務があったので、二日目だけの参加となった。プログラムは下記のとおりで、満員であった。

9:30~10:00 受付 10:00~10:10 開催挨拶、オリエンテーション

10:10~11:00 **記念講演Ⅰ**「イギリスのソーシャルケアの動向とソーシャルワーク教育の現状」

講師:イギリス・サザンプトン大学教授 ジャッキー・パウエル氏

11:10~12:10 **記念講演Ⅱ**「イギリスのケアスタンダード法とCCWの役割—ケアサービスの評価のあり方とシステムについて—」

講師:ウェールズ・ケア協議会 チーフ・エグゼクティブ リアン・ヒューズ・ウィリアム氏

13:00~14:00 **記念講演Ⅲ**「日本とイギリスのソーシャルワーク比較」元厚労省社会援護局長炭谷茂氏

14:15~16:05 **シンポジウム**「ソーシャルワーク教育とソーシャルワーク実践との関わり」

シンポジスト:

- ・IFSW 会長 デビット・ジョーンズ氏(イギリス)
「ソーシャルワーク教育のグローバル・スタンダードとソーシャルワーク実践」
- ・韓国梨花女子大学教授 韓国ソーシャルワーカー協会会長 金聖二氏
「韓国における社会福祉士の養成課程と社会福祉制度・実践」
- ・(社)日本社会福祉士養成校協会会長・大阪市立大学教授 白澤政和氏
「日本における社会福祉士の現状及び課題とソーシャルワーク教育」
- ・ロンドン行政区のソーシャルワーカー・サザンプトン大学修士課程修了、
元(社)日本社会福祉士会事務局員 矢嶋真希氏
「日本とイギリスのソーシャルワーク教育及びソーシャルワーク実践の比較」

要点:

- ・イギリスでは、ソーシャルワーカー教育課程で実習を重視しており、2ヶ所で200日の現場実習が課せられ、現場の指導者が、服装やコミュニケーションの仕方、面接での対象者との距離のとり方、机の配置等まできめ細やかに指導し、学生(院生)にとっては、非常に厳しく辛いものであるが、それゆえ資格を取得した時には自負心・自信がもてる。
- ・日本の社会福祉教育では、縦割り行政の壁を打ち破ることができず、ニーズ把握にしても、提供サービスにしても、法制度の枠内の発想でしか捉えられていないので、今後は、そのような枠をなくし、人々の人生のwell-beingのために、社会変革を進め、人々をエンパワーし、すべての人の生活全体を支えるという視点で、社会福祉のしくみと社会福祉教育を改善すべきである。
- ・日本の社会福祉士制度発足後20年の社会福祉教育の反省としては、演習や実習教育内容について社会のニーズに応える専門職養成になっていなかった。また、資格取得後の能力開発やキャリア開発のための研修体系が未整備である。